

# やんばるとSDGs

## 「名桜大学の高大接続とピア・ラーニングプログラム」

高安 美智子 (Michiko Takayasu)・木村 堅一 (Kenichi Kimura)・立津 慶幸 (Yasutomi Tatetsu)

名桜大学 健康情報学科

キーワード：高大接続, ピア・ラーニング, 高大接続勉強会, 入学前特別講座

### 【目的】

本研究は、将来の夢を描き、社会で活躍できる人材育成に資するための持続的な教育実践に活かすことを目的とする。そのため、高大接続事業の実施体制の構築と成果及び課題を検証し、課題改善を図りつつ、意欲のある多様な学生を受け入れる方法と体制づくりの整備に繋げる。

### 【方法】

- (1) 高大接続事業とピア・ラーニングプログラムの持続的な実施体制を構築し、入学後の教育との系統性を明示する。
- (2) 入学前学習プログラムの実施状況を分析し、プログラムの成果と課題及びその改善策を検討する。高大接続の目標達成度を評価するため、『入学前学習プログラム』の実施が『ピア・ラーニングの活用』『探求学習の達成度』『自己学修』『大学満足度』にポジティブな効果をもたらすという仮説を立てる。その仮説を検証するための調査・分析を行う。
  - ① 入学前教育プログラムの実施状況と、入学後の主体的な学びにおける比較を行う。
  - ② 入学後のピア・ラーニング実施における北部出身学生とその他の学生の学習センター利用状況を調べる。
- (3) 入学から卒業までの学習活動を可視化し、卒業後のキャリアとの関連性について考察する。
- (4) これからの教育上の高大連携の在り方として何を目指し、どのような指導方法を身につけていく必要があるのか検討した。その結果、急速に変化する社会における「思考力」の育成という視点から、探求学習の指導方法や北部地区の課題となっている英語教育における教員の指導力向上を目的とした高等学校教員及び大学教員の授業改善に資する研修会を開催する。

### 【結果及び考察】

- (1) 「2022年度名桜大学ピア・ラーニングプログラム」を、「学生募集活動・入学前教育・学力調査・初年次教育・学習支援センターの活用・点検・評価」の項毎に、「プ

ログラム名・対象者・目的・内容・評価の視点・企画担当部署・実施期間及び実施要項やチラシ、自己点検・評価に向けた報告書等のURL」を分かりやすく一覧表にまとめ、学内で共有し、報告書に挿入した。

- (2) ① 入学前特別講座 I・II は、意欲・目標設定・高校の復習・講座の達成度がいずれも高くなっており、入学後のモチベーションアップに繋がっているという結果が、受講者のアンケート結果から分かった。これらの結果は、高大接続のギャップを小さくすることができた成果と捉えている。また、入学後のアンケート結果から、入学前教育プログラム（e-learning教材）の実施状況と入学後の主体的な学びに対する自己評価を対比すると、図1より、プログラムを最後まで終わらせた学生とそうでない学生では、「入学後の目標を明確にすることができた」、「大学で学ぶ意義を理解できた」、「大学で専攻する基礎力を身に付けた」、「入学までの間学習習慣を維持する」等、すべての評価項目で自己評価が高く、入学前学習の成果が把握できた。

### 入学前学習の取組と目標達成状況

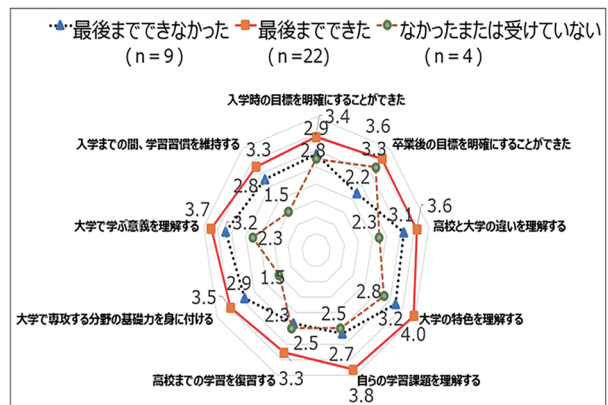


図1 入学前学習の取組と目標達成状況

② 入学後の1年次のピア・ラーニングを分析した。3学習センターそれぞれの特色を活かして学習支援を促していることが分かった。例えばLLCは、2022年度をみると北部学生の利用率が84.5%と高くなっている。LLCとMSLCの直近3年間の利用率は、北部学生の方がその他の学生より高い結果となっている。また、

MSLCは、一人あたりの利用回数が多く、繰り返し利用していることがわかる。MWCの地域別利用者数は年度により異なる傾向が見られた。MWCは年度を通じて安定した利用者数を保つことにより、さらなる学習支援を実現できると考えられる。

- (3) 2018年度入学生の入学から卒業及び就職状況までのデータ集計を行った。その結果、卒業及び就職に関して、北部出身とそれ以外の学生では、有意差は認められなかった。そのことから、入学時の基礎学力不足により、学業を継続できるか懸念された学生が、入学後に努力を重ね、希望を叶えたことが窺える。本学の入学前教育、初年次教育、専門教育における学びの中で、教員による教育相談や学習支援のある学習環境で学生自らが努力をして、課題を乗り越えてきたことが推察できる。しかし、単年度の集計結果であるため、引き続き調査分析を行うこととなった。
- (4) 県外から講師を招聘し、高大接続における教育上の課題として、小・中・高・大学教員、生徒、学生を対象に研修会を実施した。

①「探究学習研修会」は、午前の部で「やる気に満ちた『やさしい学校・教室』のつくりかた～『学習する組織』によるしなやかに変化し、進化し続ける学校・教室づくり～」の部では「探究授業のはじめかた～『探究』を体感してみよう、STEAMって何?～」をテーマに開催した。

研修に参加し、これからの社会で必要となる資質・能力を身に付けさせるためには、教員も総合的な視点から探究活動に取り組まなければならないことを共通理解した。

②「英語教育研修会」は、「小・中・高・大学の英語教育にどう取組むか、英語の学習法」をテーマに講話があり、具体的指導方法の紹介も交えた研修であった。

教員の役割の重要性について共通認識するとともに、教育方法の知識を得る機会となった。いずれの研修も教員の授業力向上に資することが期待できる研修となった。

## 【まとめ】

- (1) 「高大接続プログラム2022」を作成し、今後の点検・評価までの流れを明確にした。さらに担当組織を明確化し円滑な運営に資するための共通理解を図った。
- (2) 第8回高大接続勉強会において、北部出身学生が直接母校の教員に入学後の学習状況等について報告及び情報交換を行った。高校の教員からは、かつての生徒が高大接続のギャップを乗り越え主体的な学びができていることが実感できたというコメントがあった。また、初年次教育等の本学のカリキュラム運営にも関心

が寄せられた。

- (3) 「やんばるとSDGs 名桜大学の高大接続とピア・ラーニングプログラム」の報告書をまとめることができた。

内容は、最初に我が国の高大接続に関する研究報告から、高大接続改革の背景及びその動向、高大接続改革が示す「学力の三要素」、高等学校教育改革と大学教育改革の現状について紹介した。次に、本学の現状報告では、入試形態別在籍、新入生学力調査結果、3学習センターの利用状況について、北部出身学生とその他の学生の比較を行っている。

最後に実践報告として、「高大接続勉強会」と「入学前特別講座1・Ⅱ」の5年間の実践報告のまとめを紹介した。

今後もさらなる研究及び実践を継続し、高大接続事業の持続可能な教育を推進するための発展的な取組となることが期待できる。

報告書は、北部地区7高等学校及び、国頭教育事務所、北部12市町村教育委員会に配布した。



図2 やんばるとSDGs  
名桜大学の高大接続とピア・ラーニングプログラム報告書